



情報(第180号)



令和6年6月28日

745-0031 周南市銀南街 21 銀南ビル 2階
銀座社会保険労務士法人 社会保険労務士 吉国 智彦
TEL 0834-34-0567 FAX 0834-34-0565

E-mail: ginzasyakaihoken@iaa.itkeeper.ne.jp

<https://ginza-syaroushi.com/>

動画:社会保険労務士チャンネル

<https://www.youtube.com/channel/UCUHFVsnXW9LJGy4HG4hRQZw>

子たぬきのパン:民家活用、新緑の地で焼き立ての美味しさ抜群(周南市鹿野上1260・令和6.6.22)

有能な労働者

一般論として、労働者は業績のよい企業への就職を求め、企業は有能な労働者を求めています。

企業は人なりと申します。一企業に所属する労働者の質が企業価値を決めることになり得ますから、如何にして優秀な労働者を採用・育成していくかが企業の将来を決めます。

そこで、私見ながら今号は、有能な労働者を育成するためには、どのような対策・姿勢を持てばよいかについて述べてみます。



1 最低賃金の動向

本年も、最低賃金引き上げの議論が厚生労働省で始まりました。働く人からは、物価高騰が続く中、普通の生活を維持することすらままならないと、大幅な引き上げを求める声があがっています。

一方、企業側は最低賃金の引き上げには反対しないものの、大幅な引き上げには慎重な構えです (6月25日NHK NEWS WEB)。円安によって原材料費及び光熱費が高騰するなかで、最低賃金を引き上げるだけでは企業負担が増すのみとなって、企業が倒産したとなつては元も子も失うのです。

とはいえ、現在、賃上げは政府の既定方針となっていますから、この攻防の大半が決着しているといえ、「額」をいくらにするかの問題です。今後企業 (特に中小企業) の体力勝負となってくるかもしれません。

2 最低賃金の動向

多くの就業規則は、「昇給は、勤務成績その他が良好な労働者について、行うものとする」といった規定ぶりが一般的です。

要するに生産性が高くなければ (売上が伸びなければ)、昇給 (賃上げ) はできないわけで、最低賃金は、その保障なくして引き上げなくてはなりません。底上げであることから、最低賃金以上で雇用している労働者の賃上げ圧力ともなります。企業としては、何としても労働者の能力向上を図る必要があるのです。

3 仕事は喜び

それでは、この項からは、有能な労働者を育成するための施策について当職がかねてより考えていることについて、述べていきましょう。

その第一は、仕事の意義を理解することです。アダムとイブは、禁断の実を食べたことから楽園を追放され、食べるために働かざるを得なくなった。つまり、仕事という罰を与えられ、仕事は忌むべき行為となつて、早く終わって多くの報酬を得るべきとの仕事観が西洋ではあるのです。

しかし、我が国は、仕事そのものは喜び、誇り、生き甲斐なのです。そうであるからこそ、大東亜戦争で徹底的に国土を破壊されたにもかかわらず、13年後に東京オリンピックを開催、その9日前には世界最速、時速200kmの東海道新幹線を開通

しました。これは多数の労働者の力に外ならないのです。西洋のように仕事を苦役とせず、「喜び」を得るためにやるものです。

4 好きになる

「好きこそ物の上手なれ」といいます。大谷翔平選手は、野球が好きだからこそ活躍できます。

好きな仕事を見つけるのは困難なように感じられるものの、京セラの創業者である稲盛和夫さんは、仕事に惚れる、仕事を好きになれと言っておられます。

そのためには、仕事に興味を持つことです。製造業ならば、この材料はどんな材質なのか、どうしたら正確、かつ、早く処理できるか、どこに使われて、どんなことに役立っているのか、小売業ならば、1 日何個売れるのか、どの年代に人気が高いのか、栄養価はどれほどか、など興味を持って眺めることで、仕事を好きになることができます。

5 向上心・成長の志

企業内で良好な人間関係を構築すること、顧客との人間関係を構築すること、仕事の技術を習得すること、得意先を把握すること、機械操作を理解すること、仕事の規則を知ることなど、今より伸びなければならない事項があります。これを着実に実行するために、向上心、成長の志を胸に刻みましょう。

6 意欲

前項と深く関連することです。今日 100 なら、明日は 110 作るといった目標が必要です。今日は、新しい技術を試そう、新しい人間関係構築のために相手方の氏名を覚えて呼びかけてみようといったように、目標達成の意欲が新しい行動に繋がっていきます。

7 自己研鑽

本年、ある採用労働者研修で指摘した事項に、「皆さんは学校を卒業して、これで勉強をしなくてよくなったと思っていないですか、冗談じゃない、むしろこれからますます勉強して資格取得をしていかなければならない」との助言をしました。

勉強が嫌い、苦手であった方が有する心模様です。仕事も勉強も好きであるべきことが理想といえます。ただ、学校の勉強の多くは幅広く押し付けられたものとなりがちです。一方、企業での勉強は、必要な分野に限ってするもので、仕事が喜び、好き、向上心、意欲を有しているならばワクワクする知識を獲得することに繋がってきますから、楽しい勉強の場です。

そして、資格取得をすることで、企業内・対外的な評価が高まり、賃金の向上も見込めますから自己研鑽は喜びに変えやすいものなのです。

なお、すべての労働者における自己研鑽において、前提があります。一定水準の「読む」力が必要で、これが伴っていないと支障が生じることとなります。普段から、新聞、小説・歴史書・政治物等、なんでもよいので読書する習慣を身につけておくことが必要です。